



夢のきっかけをくれる税金

大田区立雪谷中学校 三年 生田 美緒

ある日の休み時間のことだ。私は次の授業の理科を楽しみにしていた。私は理科が好きで、授業の前には必ず教科書に目を通してどんな授業になるのか考えるのだ。その日は化学の実験をすると予想していた。休み時間の終わりのチャイムが鳴り、先生が教室に足を踏み入れる。しかし、私はそこで違和感を覚えた。先生が実験器具を全く持ってきていないではないか。その違和感を解消するより早く、先生がこう言った。

「実験で使う薬品が一部なかったから、今回はその実験の動画を見るだけにします。」
私はひどく落胆した。

授業が終わり、家に帰ったあと、私は疑問を抱いた。なぜ実験に使う薬品がないのだろうか。年の最初に引き落とされる教材費の中に薬品の代金は入っていないのだろうか。少しばかりふてくされながら調べていると、あるサイトを見つけた。そこには、理科で使う実験の薬品は「税」でまかなわれている、と書いてあった。

そのサイトに書かれていたのは実験の薬品のことだけではない。理科室の机から始まり、もちろん椅子も黒板も、アルコールランプも、更に

は人体模型も税金によって購入されているそうだ。いつも何気なく使っていた理科室は、税金によって機能していることに気づき、とても驚いた。しかし、驚くべきことはそれだけではない。その物たちの値段だ。真っ黒で時々落書きをしている人がいるあの机は、約二十三万円。怖い怖いと言いつつ手を揺らして遊んでいる人がいるあの人体模型は、約三十九万円。これらが全て税金によって購入されており、知らないうちに私たちの勉強を支えてくれていたのだ。現代の中学生は、なんと恵まれた環境にいるのだろうか。ついさっきまで「なぜ薬品がないんだ」と不機嫌だった自分が恥ずかしくなった。

思えば、私が理科を好きになったのは、実験を通してその楽しさを覚えたからだ。税金がなかったら、私が理科を好きになることなどなかった。そう考えると、税金のありがたみが今よりもっと身に染みた。

私には理科についてもっと学びたいという夢がある。その夢のきっかけをくれたのは税金だ。税金は他にも、体育館をきれいにして私たちがよりよい活動ができるようにしたり、各教室に電子黒板を設置して私たちが充実した勉強ができるようにしたりと、学生の学びを支え、さらに多くの「夢のきっかけ」をつくってくれている。そしてそのきっかけは、特別な行事の中だけではなく、毎日受けている授業の中にも存在していると思う。そういった一つ一つのことを大事にしながら、私は今後学校生活を過ごしていきたい。